

# 応用講習会Ⅳ 都技 研究生涯 修

## 【重要なお知らせ】

1. コロナウイルス感染拡大防止目的により、参加申し込み者のみが視聴できるYouTubeの限定公開システムを用いたオンラインによるセミナー開催となります（\*オンライン環境がない方は会場参加可）。
2. **本研修会は東京都保健局よりの委託事業となっております。**  
**つきましては受講対象者は以下の方に限ります。**
  - ① 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員
  - ② 学生
  - ③ 東京都内在住在勤歯科技工士

## 【申込方法】

- ① 参加希望者は下記QRコード、もしくは東京都歯科技工士会のホームページからお申し込みください。  
ホームページURL: <https://www.to-ginet.com>
- ② 上記オンライン申込をされますと登録されたメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。



申込用QR

## 【LINE公式アカウント登録のお願い】

緊急連絡、変更&追加報告をスムーズにさせるために都技では試験的にLINE公式アカウントを設けましたのでLINEを使用されている方は、是非とも登録をお願いいたします。



都技LINE公式  
アカウントQR

## 【お問い合わせ】

一般社団法人 東京都歯科技工士会  
〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F  
e-mail: [togi-info@to-ginet.com](mailto:togi-info@to-ginet.com)

## 2022年度 応用講習会Ⅳ

### オンラインセミナー

# 長期症例から学ぶ！ 長期維持安定のための 予防・補綴・メンテナンスの重要性

**第1部** これから補綴治療・再治療のBig waveが来る！  
～口腔の健康改善・長期維持安定のための本物のチーム医療を求めて～  
小林 明子 先生

**第2部** デジタル時代だからこそ、  
歯周組織と咬合に考慮した補綴装置の形態を考える  
～患者を知る・長期予後も考慮した視点と知識でデジタル時代に対応する～  
西村 好美 先生



Tokyo master course Science Lecture

【開催日時】  
2023年 2月19日 日

入室 12:40 開始 13:00 → 終了 17:00

### オンラインセミナー

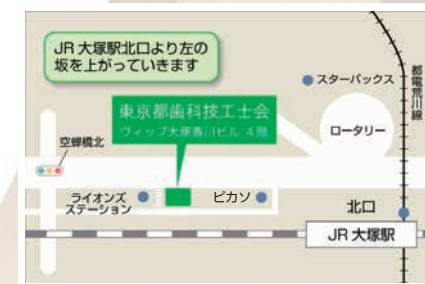
定員 80名 参加費 無料

### 会場受講

定員 10名 参加費 無料

場所 東京都歯科技工士会 研修室  
東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F

一般社団法人 東京都歯科技工士会



# 長期症例から学ぶ！長期維持安定のための予防・補綴・メンテナンスの重要性

## 第1部

### これから補綴治療・再治療のBig waveが来る！ ～口腔の健康改善・長期維持安定のための本物のチーム医療を求めて～

今私たちは新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより世界中で環境や行動が一瞬のうちに変わってきたことを経験しました。そして国民の健康への意識や関心はかつてないほどの高まりを見せています。特に2026年には高齢者率は38%予想の前で、健康で楽しい食事を望む人びとが予防やメンテナンスに関心を寄せていますが、実は高齢者の多くが補綴の洪水と言われた1970年代に治療を受け、50年後の今日、全員が再治療を余儀なくされ大量の補綴再治療のBig waveに突入することは間違いありません。

“これから仕事がなくなるのでは”と心配の声を聞きますが、歯科技工士減少の現実の中むしろこの現状に懸念せざるを得ません。

しかしながら、人生100年時代を見据えたこれからの歯科医療は、これまでの完結型主導の治療から、健康増進の医療へと確実にシフトして、自分の生涯の健康を支える重要な補綴装置として、自分のための健康をサポートしてくれる丁寧な医療を求めてきます。歯科衛生士には口腔の健康改善から長期維持安定を管理していくことが使命になり、そして本物のチーム力が試されてくるわけです。私は日々、歯科技工士の目と歯科衛生士の目で臨床の現場にいますが、それぞれ見る観点が違うため私自身の中でもこのバランスを取ることに苦労します。しかし互いの違いや交わることを理解し、また歯科技工士がなかなか知ることのできない予後の状況、ダイナミックに変化する口腔内の変化や患者の思いを共有することでこそ、医療貢献を実感することができ歯科医療の専門職として今以上にやりがいや誇りを持つことができるのだと信じています。今後CAD/CAMやIOSなどデジタルテクノロジーは急加速し、歯科の可能性が限りなく広がりを見せてきていますが、現場はやはり患者中心に応えられる能力と技量が求められています。新時代に向けて本物のチーム医療を目指すためにこれからの課題もお話しできたら幸いです。

#### ■講師略歴

### 小林 明子

【こばやし あきこ】



#### 略歴

1977年 東京歯科技工専門学校卒業  
1982年 東京歯科技工専門学校講師  
1990年 小林歯科医院勤務  
1997年 日本医歯学総合科学大学人間科学科卒業  
2009年 人間総合科学大学人間科学科卒業  
2010年 東京医科歯科大学口腔工学科非常勤講師  
2019年 新宿医療専門学校非常勤講師

#### 所属学会

●日本歯周病学会（認定歯科衛生士取得）  
●日本口腔インプラント学会  
（認定インプラント専門歯科衛生士取得）  
●日本歯科審美学会（認定士取得）  
●日本臨床歯周病学会（認定指導歯科衛生士取得）

●日本顎咬合学会（認定指導歯科衛生士取得）  
●日本成人病予防協会認定  
（健康管理士指導員取得）  
●日本小児歯科学会  
●日本歯科衛生士学会  
●日本歯科技工学会

#### 役職

●東京歯科技工専門学校同窓会会長  
●東京都歯科技工学校同窓会連絡会理事  
●日本歯科衛生士学会（診療所委員会副委員長）  
●日本臨床歯周病学会（歯科衛生士委員会）  
●日本顎咬合学会（理事、歯科衛生士部会副部長）  
●日本歯科審美学会（代議員）

## 第2部

### デジタル時代だからこそ、歯周組織と 咬合に考慮した補綴装置の形態を考える

～患者を知る・長期予後も考慮した視点と知識でデジタル時代に対応する～

超高齢社会の日本において全身の健康と口腔の健康の関連性が注目されるなか、2009年に歯科衛生士資格を取得後に歯科技工士と歯科衛生士の両方の視点から予防やメンテナンスに対する意識が変わったことはまぎれもない事実です。

現在では、私が担当した約30年の症例経過やさまざまな経験から、補綴装置セット後に長期的な予後を保つという意味において、メンテナンスによる予防の重要性を感じています。より良い補綴治療を行い、長期的な予後を保つためには、やはり歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士がチームとして連携することが不可欠です。補綴装置を装着した後の10年、20年と患者さんの日々の生活で審美性だけではなく、適切に機能する補綴装置を製作するためには、予防の視点は欠かすことはできません。補綴装置の装着後の永続性を考えた場合、加齢にともなう咬合の変化を見ていくことも大切です。近年のデジタル化の進展によって、上下顎での咬合力の変化や各部分における咬合状態の変化など、数値や映像で見ることができるようになる（可視化）ことで、補綴治療はさらに進化していくでしょう。その時、歯科技工士としてどのような役割を果たすことができるでしょうか。

患者の笑顔と口腔内の健康を考えた時、それぞれの症例に対応するためには、経験から得た知識や技術を活かし、補綴装置の歯周組織との調和の追求、機能性と咬合の安定、構造力学への追求など、補綴装置にまつわるさまざまなテーマの追求と向上心をもって知恵を備えていくことが重要です。たとえ、デジタル化がどんなに進もうとも補綴装置のデザインや最終的なチェックは、歯科技工士が行います。デジタル時代だからこそ歯科技工士としてのアナログの価値が再評価されるはずで。

そこで今回の講演では、デジタル時代だからこそ歯周組織と咬合を考慮した補綴装置形態について、私なりの考えを述べたいと思う。

#### ■講師略歴

### 西村 好美

【にしむら よしみ】



#### 略歴

1982年 行岡医学技術専門学校 歯科技工士科卒業  
1982年 藤井歯科医院勤務  
1985年 大阪セラミックトレーニングセンター講師  
1988年 日技生涯研修認定講師  
1991年 藤井歯科医院退社  
1991年 (有)デンタルクリエーションアート開設  
1995年 SJCD歯周補綴テクニシャンコース講師  
1999年 にしむら塾主幹（東京・大阪）  
2001年 松風アドバイザー兼  
国際インストラクター就任  
2002年 咬合・補綴計画セミナー招聘講師  
2007年 日本歯科審美学会認定士及び評議員  
2007年 THE EUROPEAN JOURNAL OF  
Esthetic DENTISTRY 編集委員

2009年 新大阪歯科衛生士専門学校卒業  
（歯科衛生士国家資格所持）  
2010年 大阪大学歯学部付属病院  
歯科技工スーパーバイザー就任  
2010年 新大阪歯科衛生士専門学校講師

#### 所属団体

●日本臨床歯科医学会 会員●日本歯科技工学会  
●日本歯科審美学会 認定士および評議員●日本  
臨床歯周病学会 準会員●日本デジタル歯科医学  
会 評議員●日本口腔インプラント学会●日本  
スポーツ学会